

【首里城扁額 特記仕様書】

1. 扁額製作の趣旨と概要

首里城正殿の二階に掛けてあった扁額3枚（中山世土・輯瑞球陽・永祚瀛壖）の製作を行い、首里城公園における歴史的空間の復元整備に資することを目的とする。

なお、製作を担う者は、首里城扁額製作検討委員会に係る検討で用いた資料や決定事項をもとに扁額事例や彫刻事例などを熟覧し、製作物の意匠や構造などに関する理解に努めることとする。

2. 適用種目

- ・本仕様書は、扁額「中山世土」「輯瑞球陽」「永祚瀛壖」に適用する。
- ・凶面及び本仕様書において、特記なき限り「中山世土」「輯瑞球陽」「永祚瀛壖」は共通の仕様及び寸法とする。

3. 製作物の基本情報

- ・法量：全体高 144.5 cm、全体幅 349.7 cm、額縁厚さ約 13.0 cm
- ・文字・落款

中山世土：題字「中山世土」（楷書）、落款印「広運之寶」、皇帝銘「康熙御筆」（楷書）、年月銘「康熙二十一年秋八月」（楷書）

輯瑞球陽：題字「輯瑞球陽」（楷書）、落款印「雍正御筆之寶」

永祚瀛壖：題字「永祚瀛壖」（楷書）、落款印「乾隆御筆之寶」

・木工・彫刻

地板：木板の継手接合、木かすがい使用

額縁ベース：4辺材の仕口接合、1辺あたり1枚材による

題字・落款印：彫刻にて製作

額縁彫刻：雲龍文・七宝繫文を彫刻にて製作

・髹漆・加飾

地板：地板面は黄色塗、地板縁取りは青塗・朱塗

額縁ベース：黒漆塗

題字：金薄磨

落款印：朱塗

額縁彫刻：金薄磨

4. 木工

1) 木材樹種

- ・扁額に用いる木材は、十分に乾燥され扁額仕立て後も変形する恐れがない品質とする。
- ・地板、木かすがい、額縁彫刻の材は、木曽ヒノキ（柾目、無節）を基本とし、できるだけ共木（1本の木から材を取る）による調達に努める。
- ・額縁ベース、吸付棧、御額持の材は、イヌマキ（無節）を基本とするが、品質が確保できない場合は木曽ヒノキ（柾目、無節）を基本とし、できるだけ共木（1本の木から材を取る）による調達に努める。

2) 木材の断面寸法

- ・木材の断面を表示する寸法は、寸法線で部材寸法が記入されている場合、並びに引き出し線で部材断面（横寸法×縦寸法）が示されている場合ともに、仕上がり寸法とする。

3) 表面仕上げ

- ・見え掛かり面、見え隠れ面とも、機械鉋仕上げを基本とするが、必要に応じて手道具（かんな、ノミ、刀など）・手作業による仕上げを取り入れることとする。

4) 継手・仕口の接着

- ・木材の接合は、接着剤を併用し、仕上げ面は漆を使用する。
- ・地板の継手および木かすがい：麦漆（または膠）にて接着する。
- ・額縁の仕口：麦漆（または膠）にて接着する。
- ・地板と額縁：接着しない。
- ・額縁と吸付棧：接着しない。
- ・額縁彫刻と額縁ベース：麦漆（または膠）にて接着する。

5. 彫刻

1) 題字

- ・浮彫の場合、厚さ 0.6cm の木板で各題字を成形し地板に貼り付ける。接合には麦漆（または膠）と竹釘を併用する。

- ・肉合彫の場合、各題字の輪郭内側を深さ 0.6cm ほど彫り下げる。

2) 落款印

- ・落款印の輪郭外側を 0.1cm ほど彫り下げ落款印部が浅い浮彫になるようにし、その周囲は徐々に彫りを浅くし地板面に擦り付ける。

3) 皇帝銘・年月銘

- ・皇帝銘・年月銘の輪郭外側を 0.1cm ほど彫り下げ皇帝銘・年月銘部が浅い浮彫になるようにし、その周囲は徐々に彫りを浅くし地板面に擦り付ける。

4) 額縁彫刻

- ・雲龍文、七宝繫文は、透彫（または浮彫）とする。
- ・向龍は、2材からの彫り出しとする。

5) 工程全般

- ・木取り後の荒彫り・中彫り・仕上げについては、手道具（かんな、ノミ、刀など）・手作業により行うことを基本とする。
- ・彫刻工程は別表3による。

6. 髹漆

1) 髹漆工程

- ・扁額の正面・側面については刻苧、布着、三辺地、中塗り、上塗りの工程で行うこととし、特に下記の材料と分量を目安に行う。

2) 刻苧

- ・刻苧の材料は下地用生漆・薄力小麦粉・宮古上布または八重山上布相当品（無染め）・瓦地之粉を使用する。
- ・刻苧の宮古上布または八重山上布相当品は、細かくほぐして使用する。
- ・瓦地之粉は、沖縄産赤瓦を細かく粉砕した細粉を使用する。

3) 布着

- ・布着は、薄力小麦粉と下地用漆を適量に混ぜた麦漆と、宮古上布または八重山上布相当品を使用する。

4) 三辺地

- ・下地は、3種類の瓦地之粉（粉砕した 100 目、150 目、200 目の地之粉）と下地用漆を使用する。
- ・下地付けは3回行う（一辺地、二辺地、三辺地）。
- ・瓦材は沖縄産赤瓦とする。

5) 中塗り

- ・黒漆塗りとし、日本産と中国産を混合させたものを使用する。

6) 刻苧・布着・三辺地・中塗りの材料の数量

- ・別表2を目安とする。

7) 上塗り

- ・地板面は黄色塗、地板縁取りは青塗、朱塗とする。
- ・漆は、日本産と中国産を混合させたものを使用する。
- ・黄色塗は、石黄の粉末と漆を混ぜた色味を見本とし、調達可能な色材で同じまたは近い色を作成する。
- ・青塗は、石黄の粉末と藍粉と漆を混ぜた色味を見本とし、調達可能な色材で同じまたは近い色を作成する。
- ・朱塗は、赤口朱を用いた漆塗装とする。
- ・落款印は朱塗とする。
- ・扁額四方（側面）は、黒漆塗りとする。
- ・扁額の背面は、墨ほくり帰し塗として、墨下地の上から透漆を塗る。

8) 工程全般

- ・刻苧、布着、三辺地、中塗り、上塗りの一連の工程については、手道具（刷毛、へらなど）・手作業により行うことを基本とする。
- ・髹漆工程は別表1による。

7. 加飾

1) 題字

- ・題字は、金薄磨（金箔の上から透漆を塗る）とする。
- ・金箔は日本産（2号または3号色）の立切を使用する。
- ・金箔の接着（箔下漆）は黄色漆を用いる。
- ・金箔下地として薄く蒔地を行う。

2) 額縁彫刻

- ・額縁彫刻部は、金薄磨（題字と同じ方法）とする。

3) 工程全般

- ・加飾の一連の工程については、手道具（刷毛、へらなど）・手作業により行うことを基本とする。
- ・加飾工程は別表1による。

資料4

【首里城扁額 特記仕様書】

8. 金属工事

1) 取付金具

- 取付金具は、特注ビス押えプレート（3か所）・特注ビス（径12mm、3か所）、取付用フック・調整用ボルト（径16mm、3か所）、梁下取付用プレート（3か所）・既製品ビス（径6mm、1か所あたり10個）、「御額持」額下端受金物（2か所）・既製品ビス（径12mm、1か所あたり8個）とする。
- 取付金具はステンレス製黒焼付塗装とし、特注ビス・既製品ビスはステンレス製とする。

9. 仮設工事

1) 正殿内の養生

- 床の養生については、床用養生シートの上ベニヤ（厚3mm）を敷き詰め、突付部はガムテープ貼りとする。
- 御差床の高欄・龍柱部分については、ウスバ（和紙）で養生の上、エアキャップ巻きとする。
- 御差床の左右の柱については、ウスバ（和紙）で養生の上、エアキャップ巻きとする。

2) 取付用内部足場

- 材料は単管（径50mm）とし、クランプで強固に組み立てる。
- 取付用内部足場は、施工に先立ち仮組みを行い、監督員の承諾を得る。

10. 製作物の運搬等

- 製作物の運搬等については別途とする（事業者または事業受託者と協議・調整の上定める）。

11. 製作事業の情報の記載

- 扁額背面に、製作事業の情報を記載する範囲を設定して黒漆塗りにて平滑に仕上げた後、「扁額製作業務名、事業者、扁額完成年、寄付金名」を朱漆にて筆書きする。

別表1

髹漆・加飾工程

『首里城正殿扁額製作業務報告書』(平成14年8月)p31を一部更新

工程	工程名称	使用材料等	
刻 苧 詰 拾 地	1	木地調整	
	2	刻苧彫り	彫刻刀、塗師刀
	3	木地固め	生漆
	4	刻苧埋め	刻苧綿+糊麦漆(麦漆+糊漆)+瓦地の粉 ※麦漆:生漆(53%)+小麦粉(47%)+水(耳たぶ程度の固さに水練り) 糊漆:生漆(50%)+糊(50%)+水 糊:(うるち米粉:水)=(1:4)を火に掛ける
	5	刻苧研ぎ	砥石で水研ぎ
布 着	6	引込地	刻苧の凹んだところに錆地(生漆+瓦地の粉+水)付け
	7	空研ぎ	
	8	布着せ	苧麻布、麦漆+糊麦漆(刻苧埋めと同じ材料)
	9	布目揃え	
	10	布目摺り	布目に錆地を摺り込む
	11	空研ぎ	
三 辺 地	12	一辺地	生漆+瓦地の粉(100#)+水
	13	空研ぎ	
	14	二辺地	生漆+瓦地の粉(150#)+水
	15	空研ぎ	
	16	三辺地	生漆+瓦地の粉(200#)+水
	17	空研ぎ	
	18	地固め	生漆
	19	錆地付け	生漆+瓦地の粉(水簸した細粉)+水
	20	空研ぎ	
	21	地固め	生漆
	22	水研ぎ	
中 塗 り	23	繕い錆	錆地
	24	水研ぎ	砥石
	25	下塗り(捨て中)	黒漆
	26	水研ぎ	砥石、駿河炭
	27	錆付け	凹んだところに漆分の多い錆地を薄く付ける
	28	水研ぎ	駿河炭
	29	中塗り	黒漆、漆刷毛
	30	水研ぎ	駿河炭
上 塗 り	31	塗り立て	日本産、中国産を混合させた漆(黄色塗、青塗、朱塗、黒漆)
加 飾	32	金薄磨	金箔(2号または3号色)の上から透漆を塗る 金箔下地として薄く蒔地を行う

※扁額背面は、墨ほくり帰し塗として、墨下地に透漆塗を行う。

別表2

貝摺奉行所製作漆器の1尺角(918cm)当たりの使用材料の数量

参考:『首里城正殿扁額製作業務報告書』平成14年8月 p30

工程	使用材料	道光9年製・同治7年製朱漆沈金		同治7年製朱塗		同治7年製堆朱塗	
こ く そ 詰 拾 地	壳度超漆	1.82匁	6.808g	1.82匁	6.838g	3.78匁	14.175g
	麦之粉	0.02合	2.294g	0.02合	2.299g	0.01合	12.591g
	古苧物	0.89匁	3.339g	0.89匁	3.353g	0.90匁	3.374g
	拵瓦地之粉	0.01合	2.307g	0.01合	2.269g	0.04合	9.210g
布 着	麦漆	4.50匁	16.875g	4.50匁	16.875g	4.50匁	16.874g
	桐板齊/八重山十七升白細上布	8.63寸		8.46寸		8.46寸	
三 辺 地	拵瓦地之粉	0.32合	73.738g	0.32合	73.732g	0.32合	73.694g
	壳度超漆	6.90匁	25.875g	6.90匁	25.875g	6.90匁	25.876g
真 塗 下 地	四度超漆	0.60匁	2.250g	0.60匁	2.250g	0.60匁	2.250g
朱 漆	朱漆	4.00匁	15.000g	1.38匁	5.175g		
真 塗 下 地	八度超漆			0.39匁	1.474g	0.60匁	2.250g

別表3

彫刻工程

工程	内容
荒彫り	大まかな形、量感、輪郭を出す
中彫り	全体のバランスを見ながら各部を彫り出す
仕上げ	ち密な彫りにより表面の模様などを表現する

【首里城扁額 設計図】

■正面図・構造図

